

ソーシャルメディアにおける 著作物の利用に関する調査 若者の権利意識と求められる対策

安心ネットづくり促進協議会 2023年度研究発表会

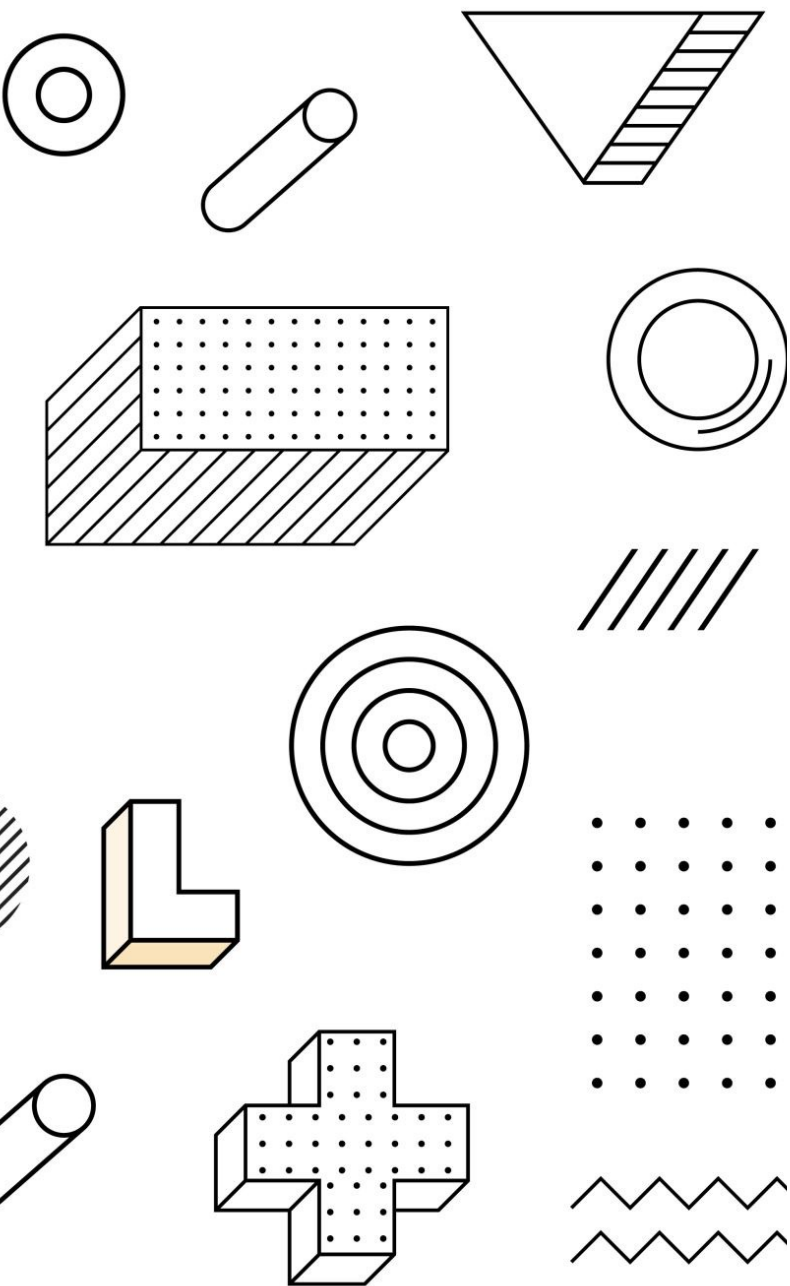
渡部 春佳

調査の目的

- 背景：創作環境のデジタル化による著作物の発信、複製は容易になり、法・ルールは複雑化している
- ソーシャルメディア上の他者の著作物の無断利用に関する意識や求めている対策について、中学・高校生によるイラストや動画の投稿活動を事例に明らかにする

今回調査のポイント

1. 中学・高校生の抱く他者の著作物の利用に関する意識と実際の法・ルール之差
啓発サイトで用いられやすい事案との比較
2. 当事者である中学・高校生自身が、ソーシャルメディアでのイラストや楽曲の投稿において求めている対策
3. 学校での著作権に関する学習機会の効果



アンケート調査

調査方法

- アンケート調査の実施
- 実施時期：2023年7月
- 方法：インターネットアンケート

（調査会社：株式会社ネオマーケティング）

調査対象者

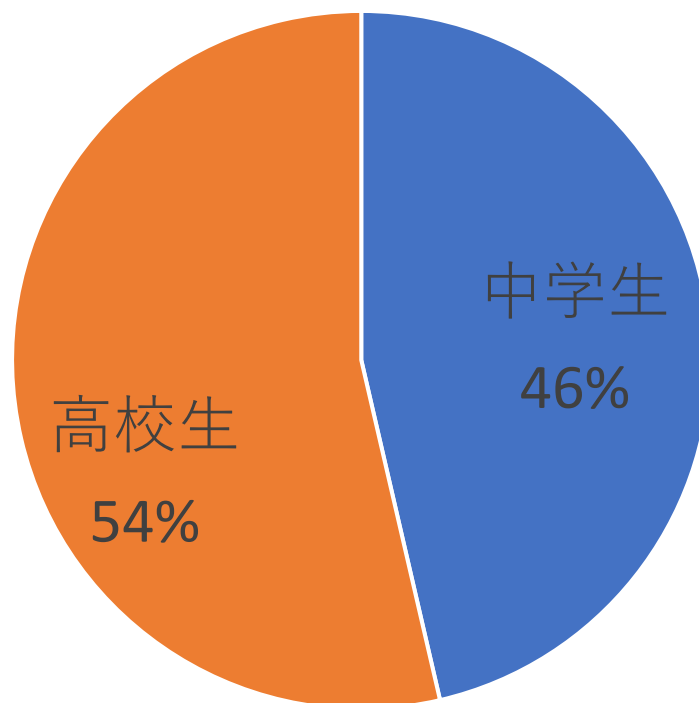
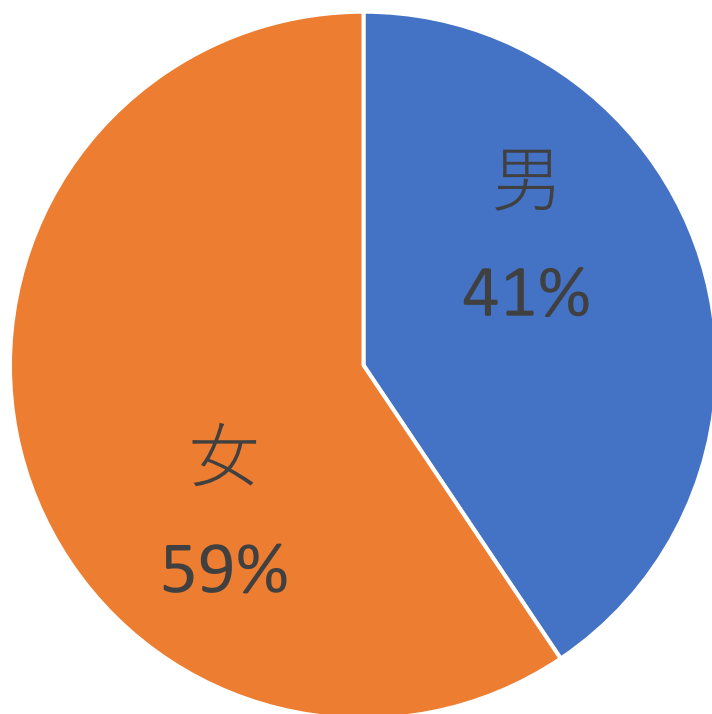
- 過去1年で、自身が作成したイラストか動画を投稿した経験がある中学・高校生を対象
- 調査の趣旨を理解し回答に同意した親子を対象
- 300件の回答→うち有効回答276件

調査の主な質問項目

- ① イラストや動画の投稿・閲覧に利用するソーシャルメディアの種類
- ② 投稿するイラストの作成方法、作成時間
- ③ **著作権に関する学習の機会の有無**、ソーシャルメディアを利用してイラスト閲覧・投稿をするときのルールやマナーを知る方法
- ④ **イラストや動画を投稿するときに気をつけていること**
- ⑤ 他の人の作成したイラスト・動画の無断利用（他者作品の無断転載・複製など）の善悪の意識
- ⑥ **他の人の作成したイラスト・動画を無断利用してよいと考える理由**
- ⑦ **ソーシャルメディア利用の際に希望する対策、違反者への罰則**
- ⑧ **新たな技術（生成AI等）に対する認知度・利用に関する善悪の意識**

調査対象者

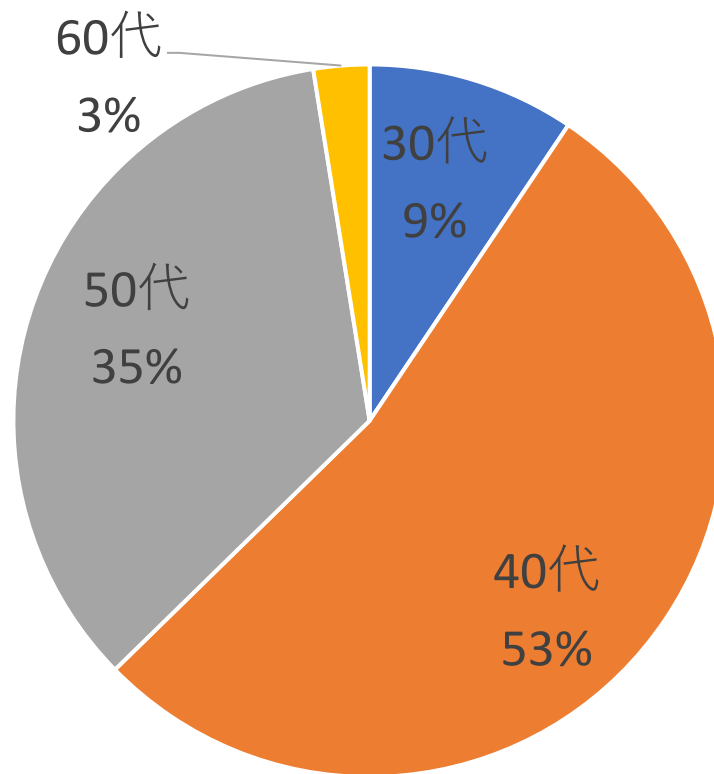
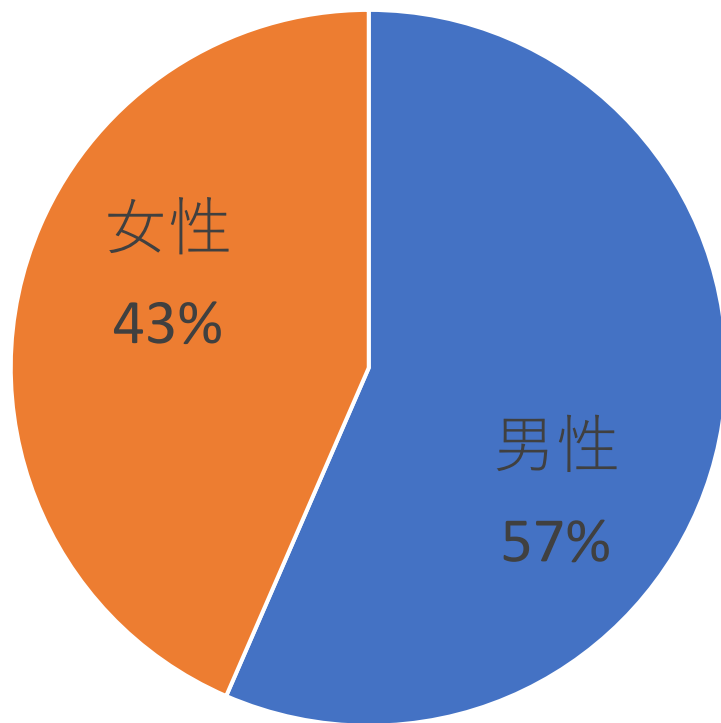
- 性別・学年別では、女性がやや多いが、約半数ずつ
- 97%が個人で使えるインターネット端末を使用



N=276

調査対象者（保護者）

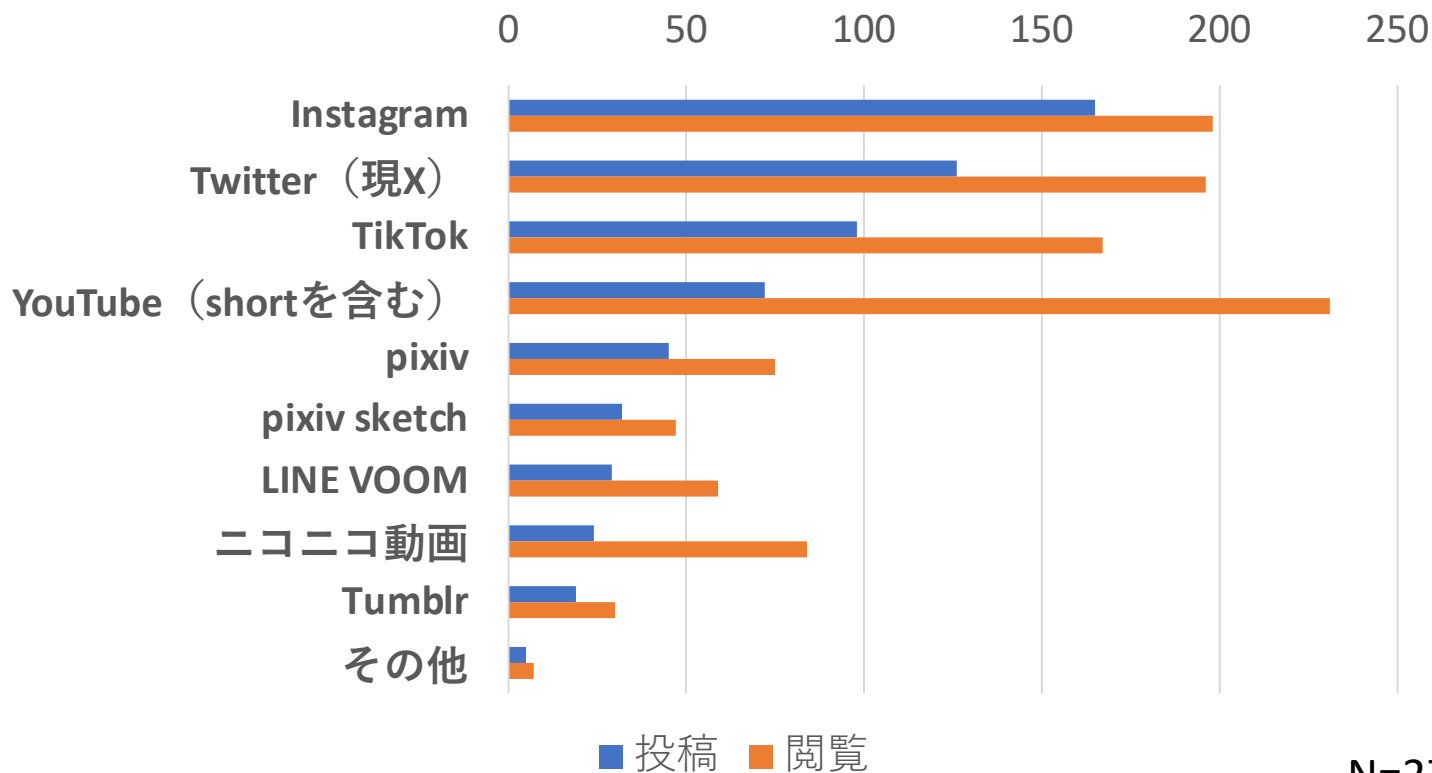
- 性別別では男性がやや多いが、約半数ずつ
- 年齢は、40-50代が大半



N=276

回答者の傾向：使用するソーシャルメディア

- 投稿ではInstagramや旧Twitter (X) が多く、閲覧ではYouTube、Instagramが多い。



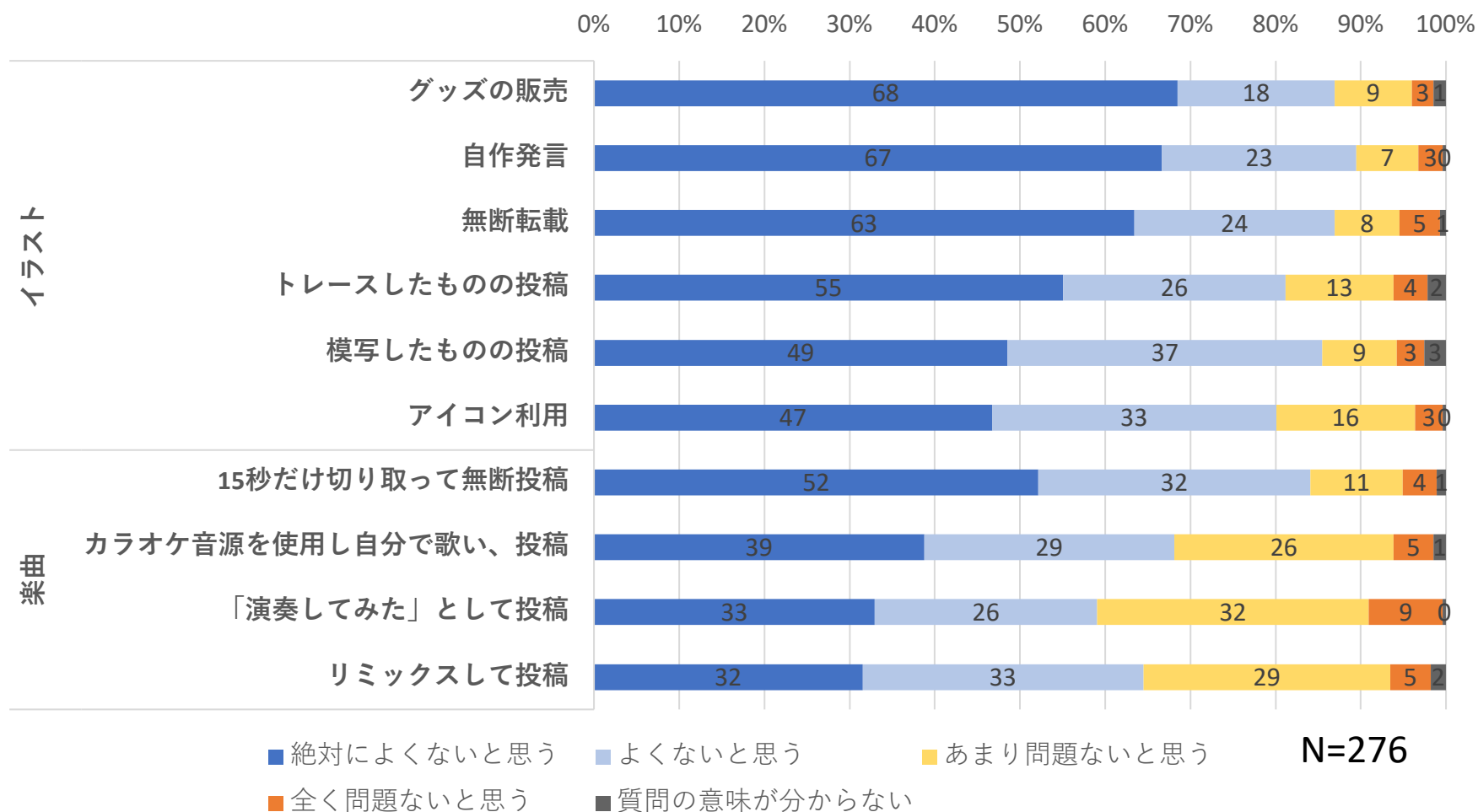
N=276

回答者の傾向：投稿の頻度

		イラストの投稿				
		週に2,3回以上	月に2, 3回程度	月に1回程度	より少ない頻度	計
動画の投稿	週に2,3回以上	60 22%	3 1%	2 1%	13 5%	78 28%
	月に2, 3回程度	20 7 %	11 4 %	1 0 %	23 8 %	55 20 %
	月に1回程度	6 2 %	7 3 %	6 2 %	15 5 %	34 12 %
	より少ない頻度	16 6 %	20 7 %	25 9 %	48 17 %	109 39 %
	計	102 37%	41 15 %	34 12 %	99 36 %	276 100%

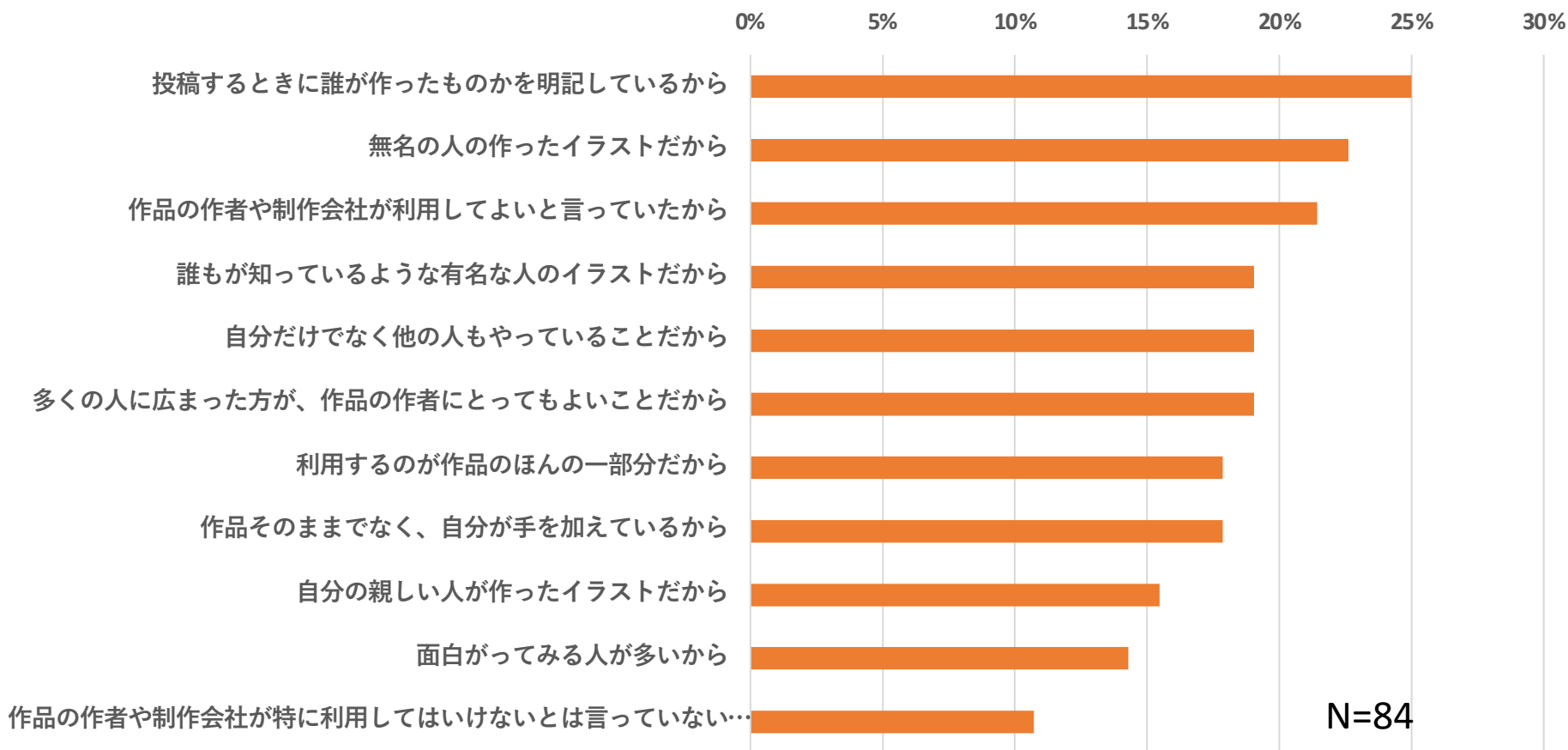
無断利用に関する善悪の意識

- イラストの無断利用は、4～7割の人が絶対に良くないと回答。
- 楽曲の無断利用はイラストに比べ、問題ないという認識が多い。



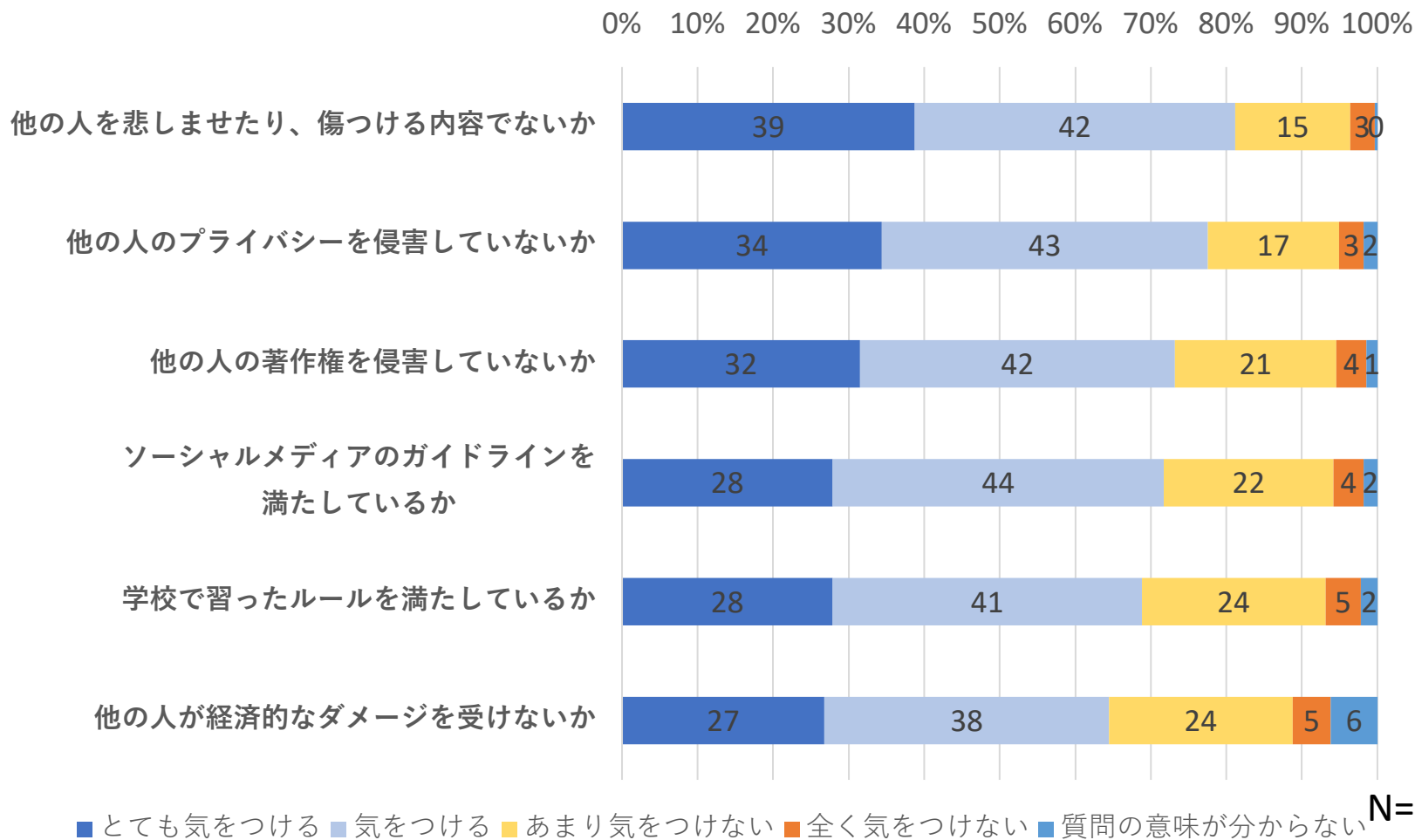
無断利用が問題ないと思う理由

- 引用のルールや、利用の許諾を理由とする人が多いが、イラストについては無名の人（もしくは有名）が作ったという理由も。



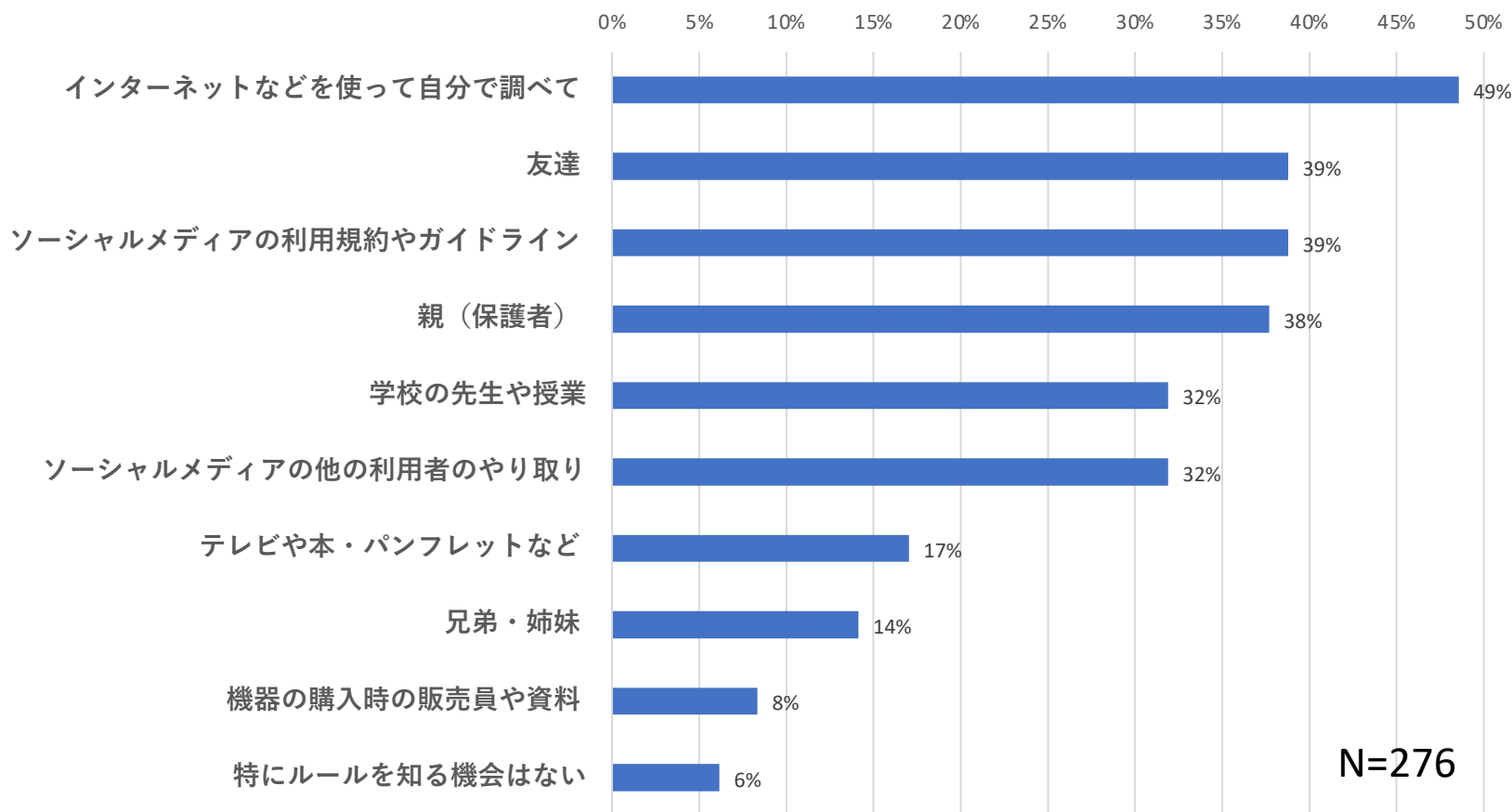
イラスト・動画投稿の際に気をつける点

- 最も気をつけるのは、「他人を傷つけないか」
- それに続いて、「プライバシー」や「著作権」の侵害



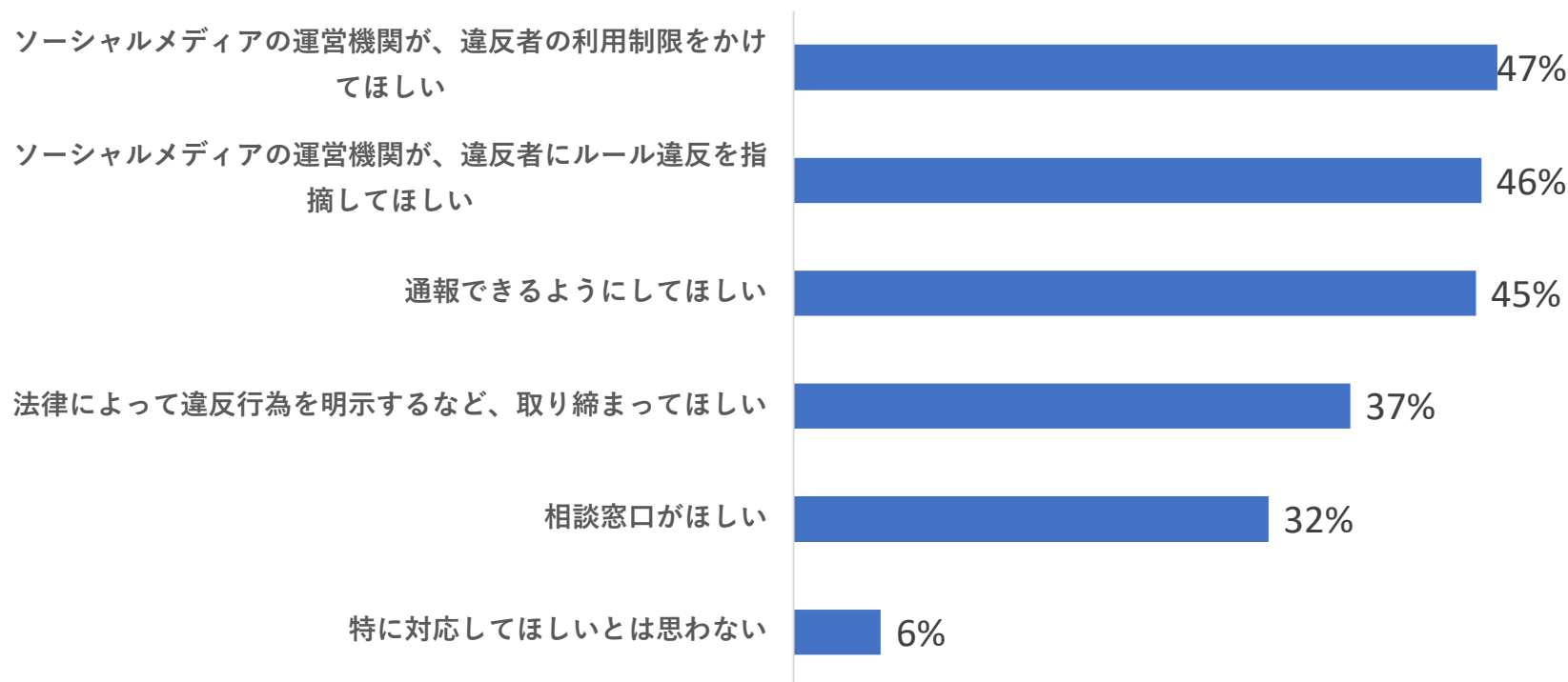
ソーシャルメディア上でイラスト・動画の投稿時のルールをどのように知るか

- 約半数が、自身でインターネットなどで調べている
- 次いで、友達、ソーシャルメディアの利用規約やガイドライン



ルール違反者に求める対応

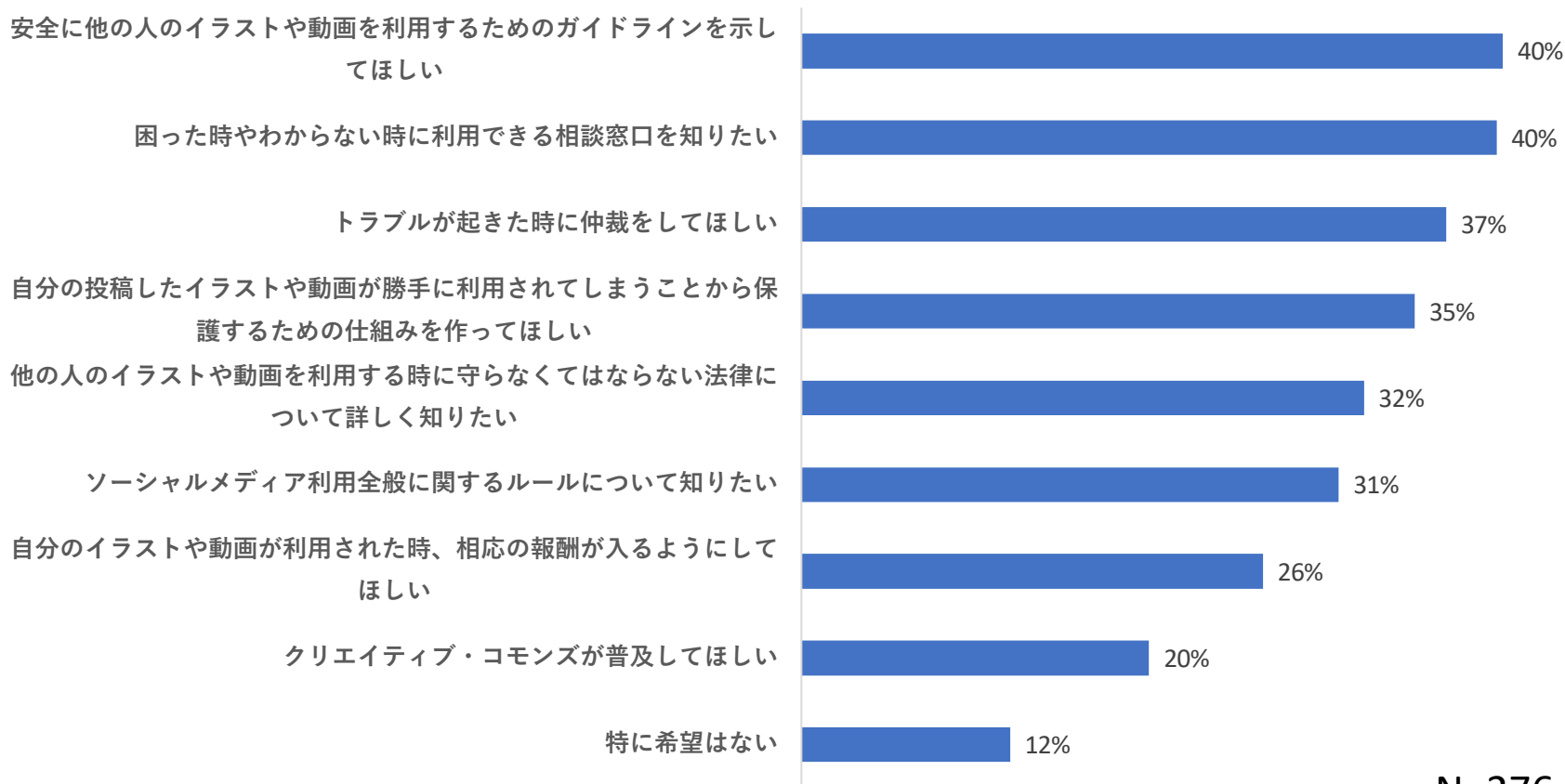
- 大半の人が、ソーシャルメディアの運営機関による対応を求めている



N=276

イラストや動画の投稿時に求める対策

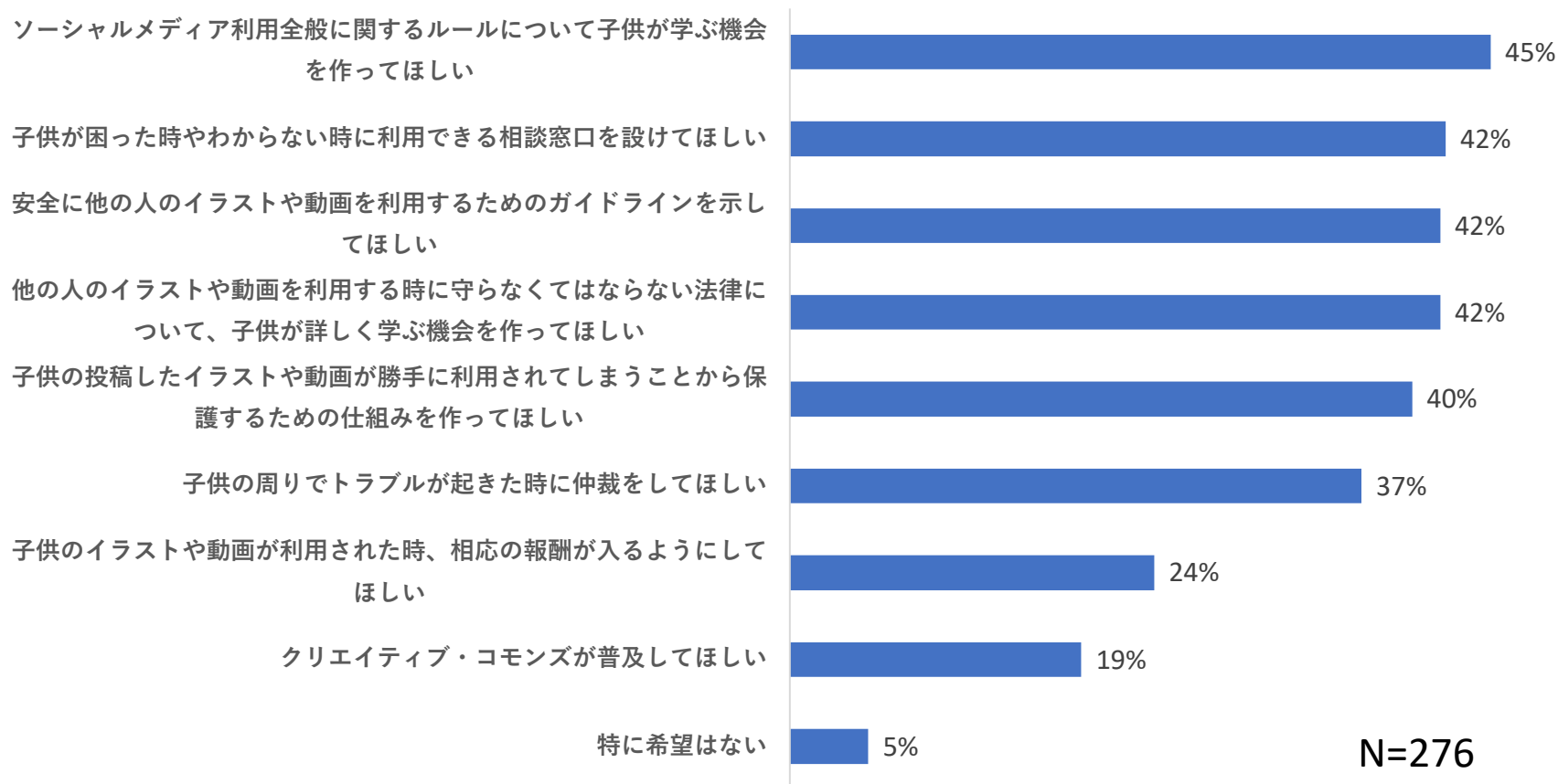
- 4割の人が、安全に利用するための「ガイドラインの提示」や「相談窓口」を希望している



N=276

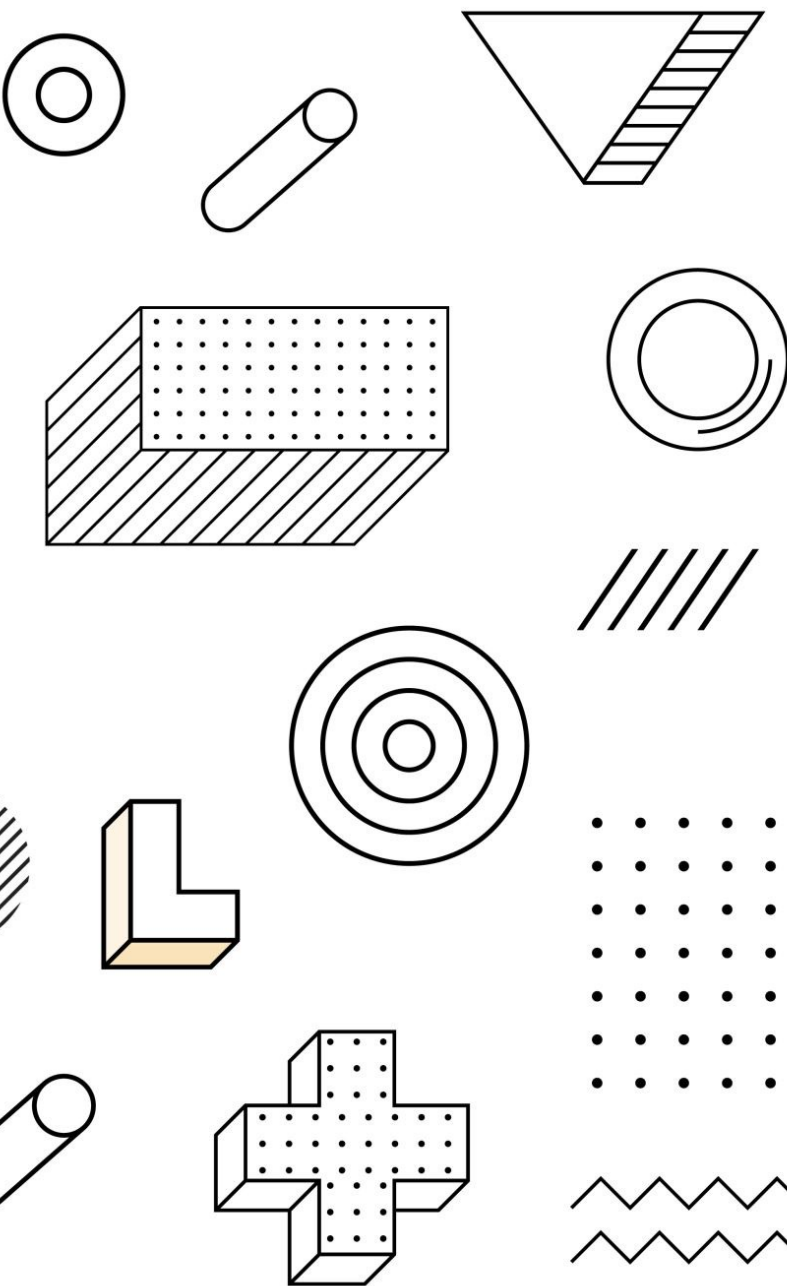
保護者の求める対策 (子のイラストや動画の投稿時)

- 45%が、ソーシャルメディアの利用全般に関するルールについて学ぶ機会を作ってほしいと回答



親子での比較

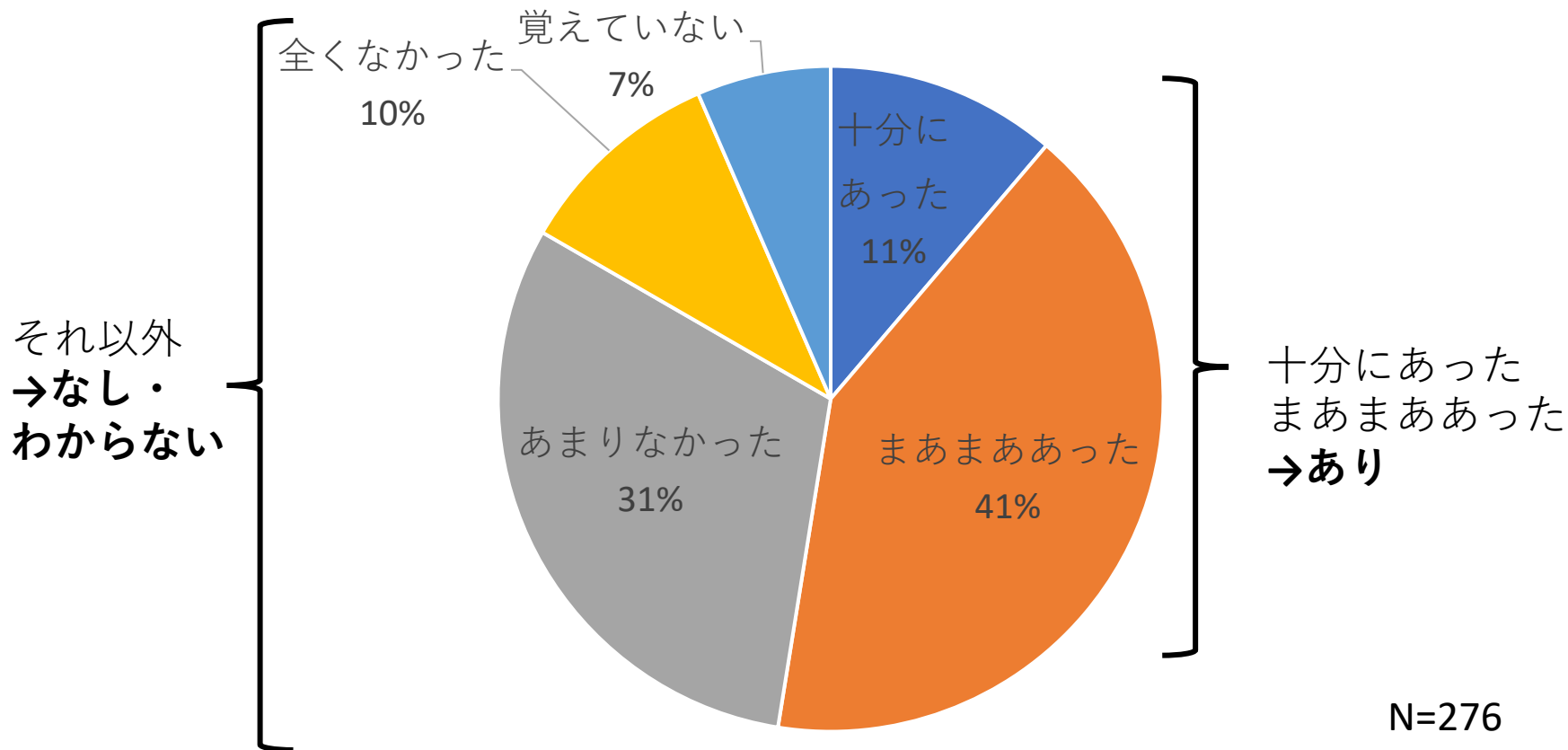
	子供		大人	
安全に他の人のイラストや動画を利用するためのガイドライン	1位	40.2%	4位	42.0%
困った時やわからない時に利用できる相談窓口	2位	39.9%	2位	42.4%
トラブルが起きた時に仲裁をしてほしい	3位	37.0%	6位	37.0%
自分の投稿したイラストや動画が勝手に利用されてしまうことから保護するための仕組み	4位	35.1%	5位	40.2%
他の人のイラストや動画を利用する時に守らなくてはならない法律の啓発	5位	32.2%	2位	42.4%
ソーシャルメディア利用全般に関するルール	6位	30.8%	1位	45.3%
自分のイラストや動画が利用された時、相応の報酬が入るようにしてほしい	7位	26.4%	7位	23.6%
クリエイティブ・コモンズの普及	8位	19.9%	8位	18.8%
特に希望はない	9位	12.0%	9位	5.1%



著作権学習の 有無で見た違い

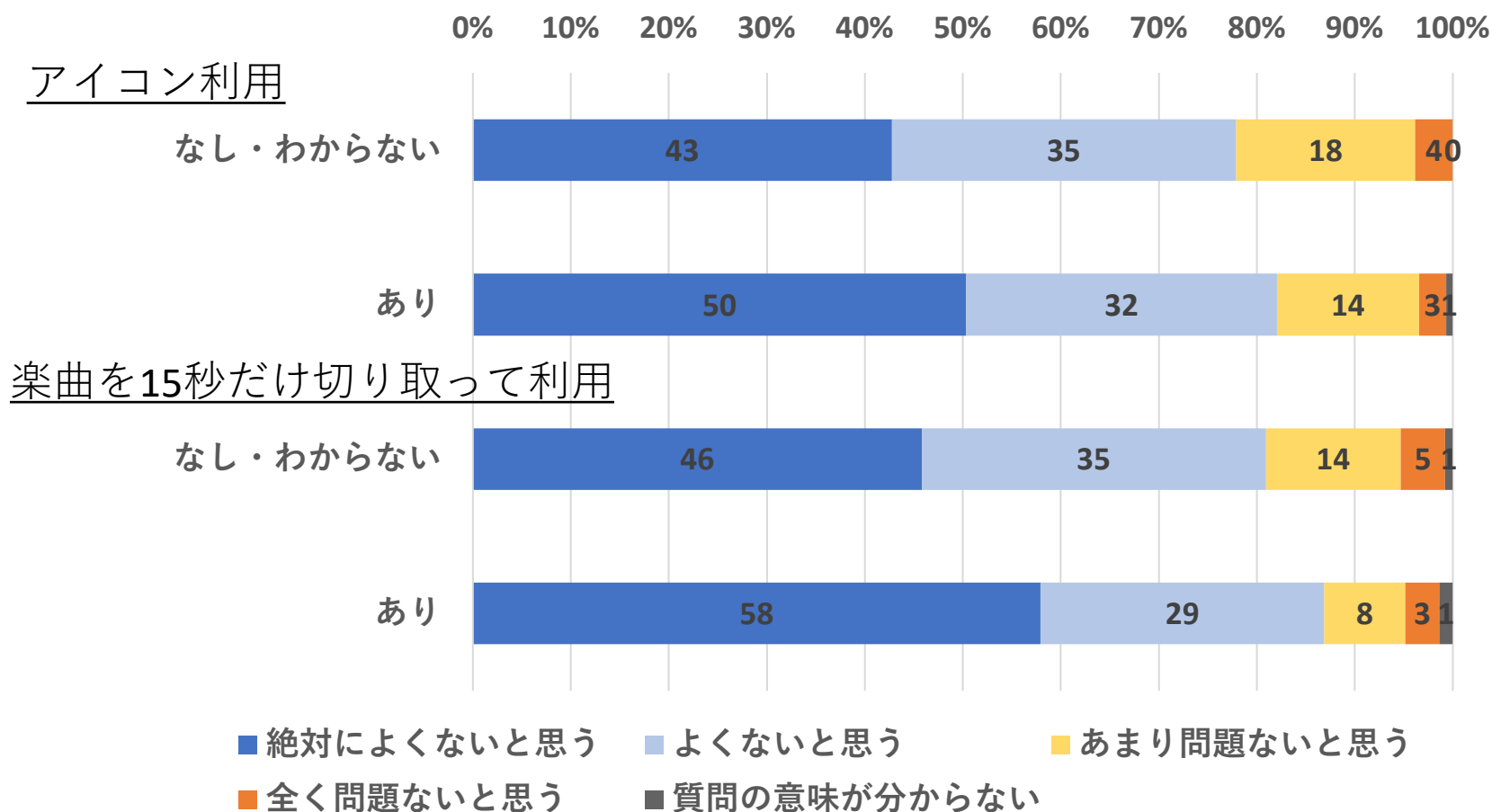
学校での著作権の学習機会

- 約半数が、学校で著作権について学習した機会がある



無断利用に関する善悪の意識への影響

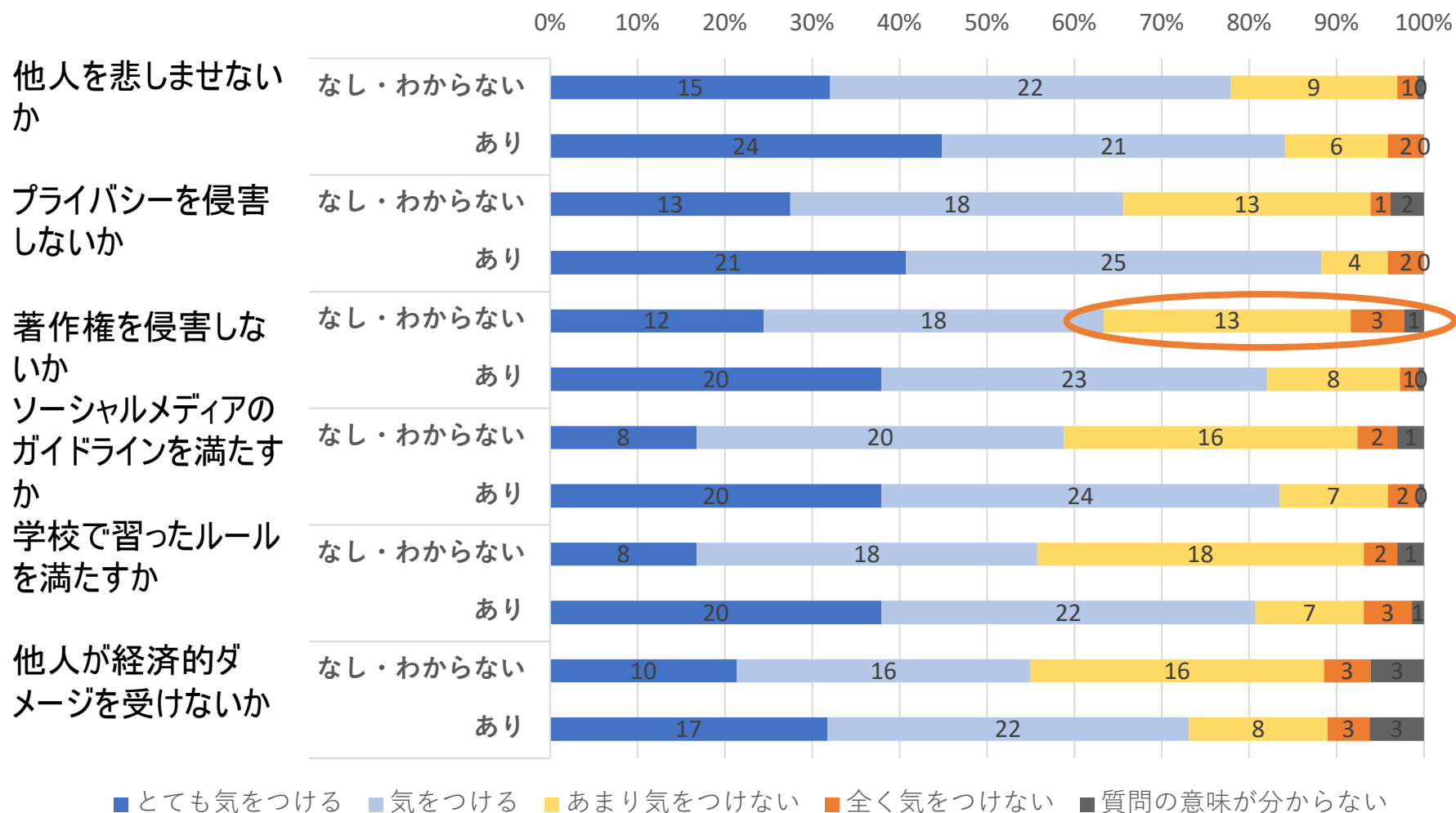
- ・ 学習機会ありの方が無断利用をよくないことと認識する傾向が高くなる



N : なし・わからない131、あり145

投稿時の意識への影響

- すべての観点で、学習機会ありの方が気をつける傾向



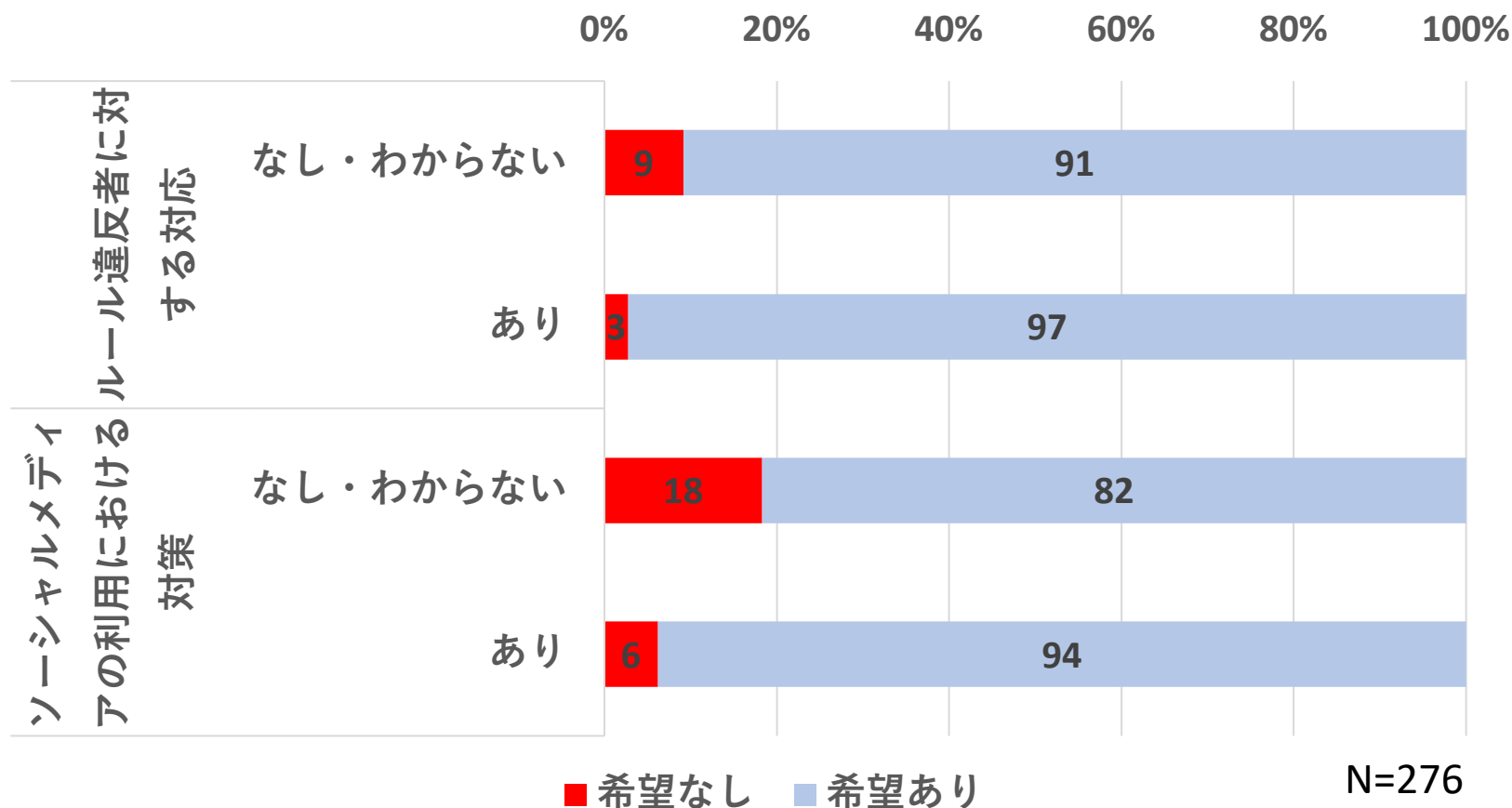
N : なし・わからない131、あり145

無断利用しても問題ないと考える理由

理由	実数	割合	左のうち著作権の 学習機会があった人	
			実数	割合
投稿するときに誰が作ったものを明記しているから	21	25%	14	67%
無名の人作ったイラストだから	19	23%	6	32%
作品の作者や制作会社が利用してよいと言っていたから	18	21%	13	72%
誰もが知っているような有名な人のイラストだから	16	19%	8	50%
自分だけでなく他の人もやっていることだから	16	19%	9	56%
多くの人に広まった方が、作品の作者にとってもよいことだから	16	19%	8	50%
利用するのが作品のほんの一部分だから	15	18%	7	47%
作品そのままでなく、自分が手を加えているから	15	18%	8	53%
自分の親しい人が作ったイラストだから	13	15%	7	54%
面白がってみる人が多いから	12	14%	3	25%
作品の作者や制作会社が特に利用してはいけないとは言っていないから	9	11%	5	56%

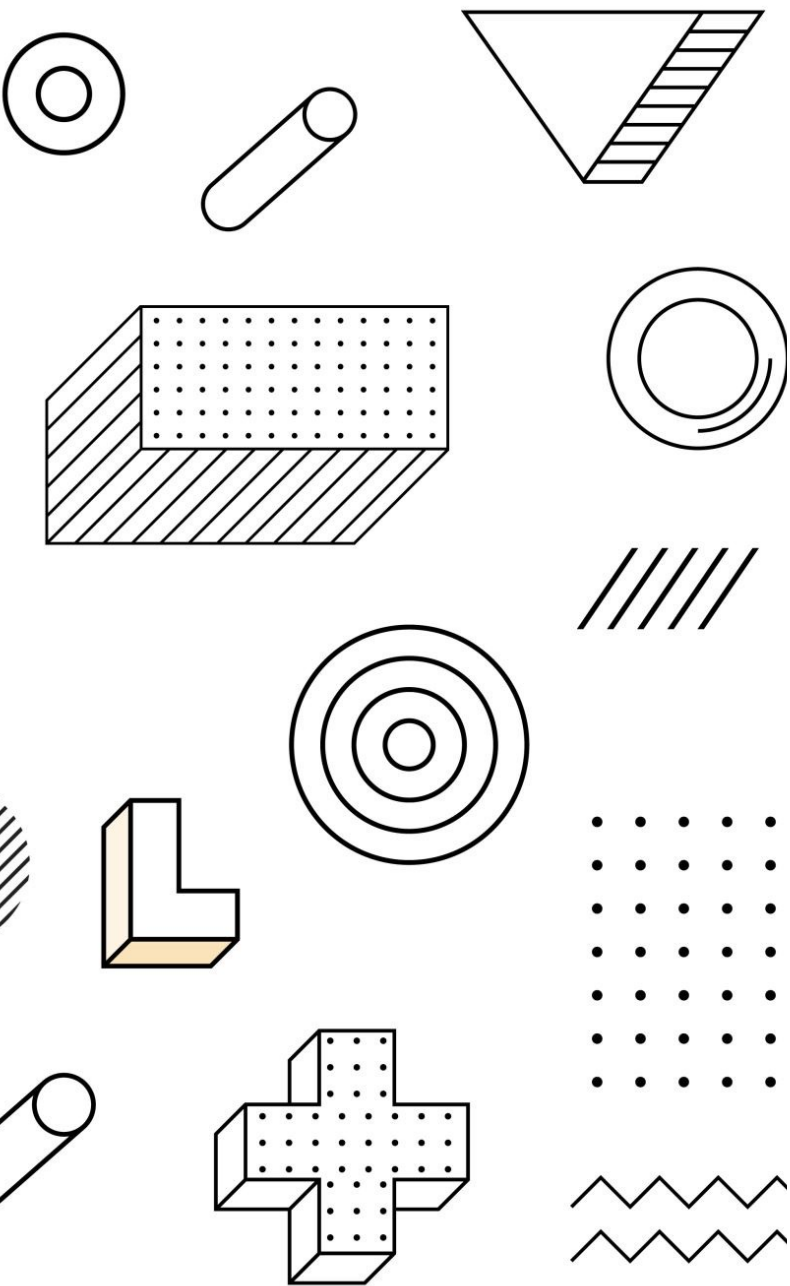
求める対策への影響

- 著作権についての学習機会がある者の方が、ルール違反への対応、利用時の対策ともに希望する傾向がある



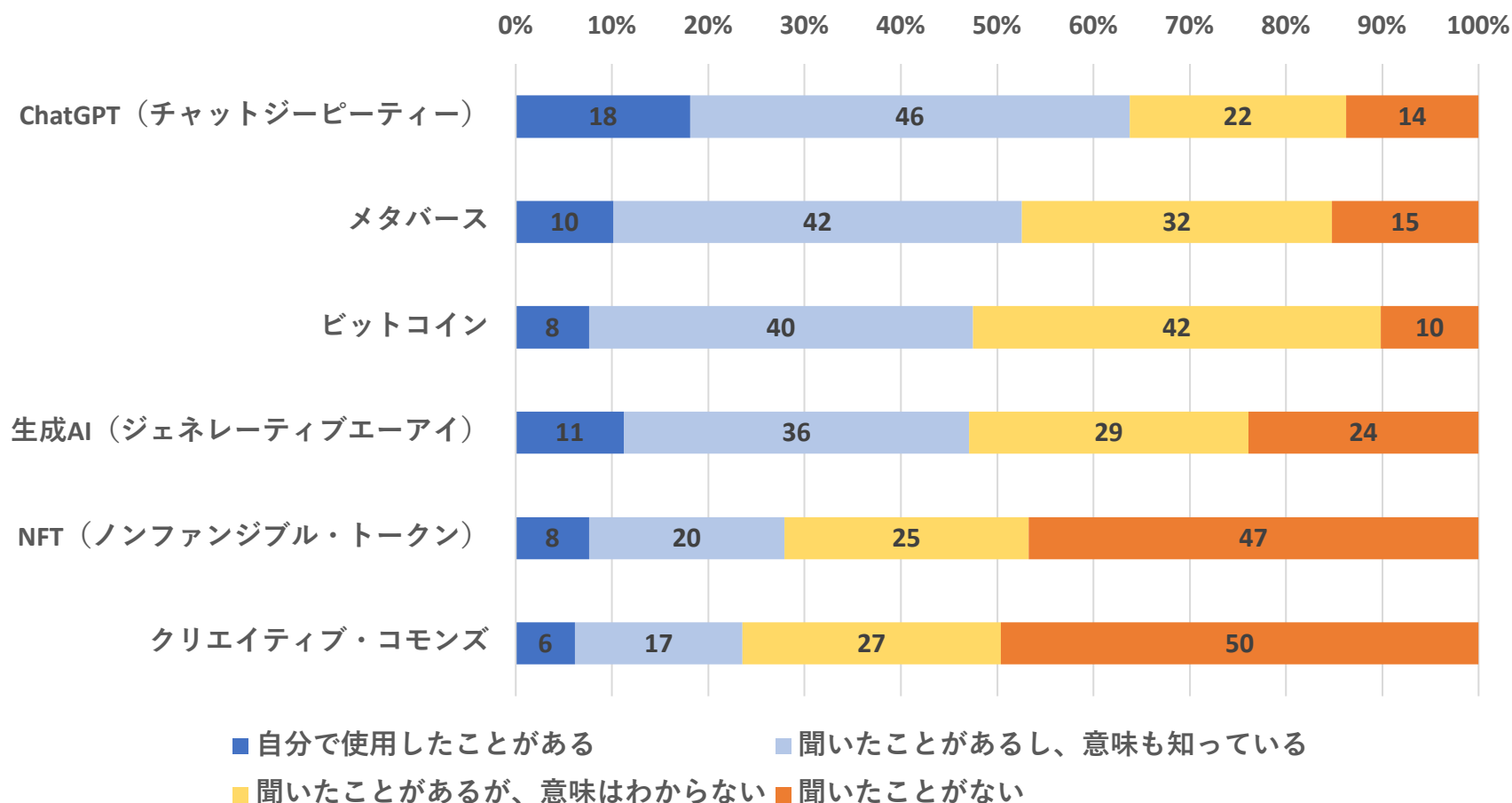
まとめ

- 著作権に関する学習機会を有することは、無断利用の善悪の意識や、投稿時にさまざまな観点から気をつける傾向にも関連している。
- 学習機会がある者とそうでない者とは、無断利用を行う際にもどのような根拠を持ってそれを行っているかに違いがみられ、学習の機会が対策を希望することにもつながっている。



新しい技術に関する認知・意識

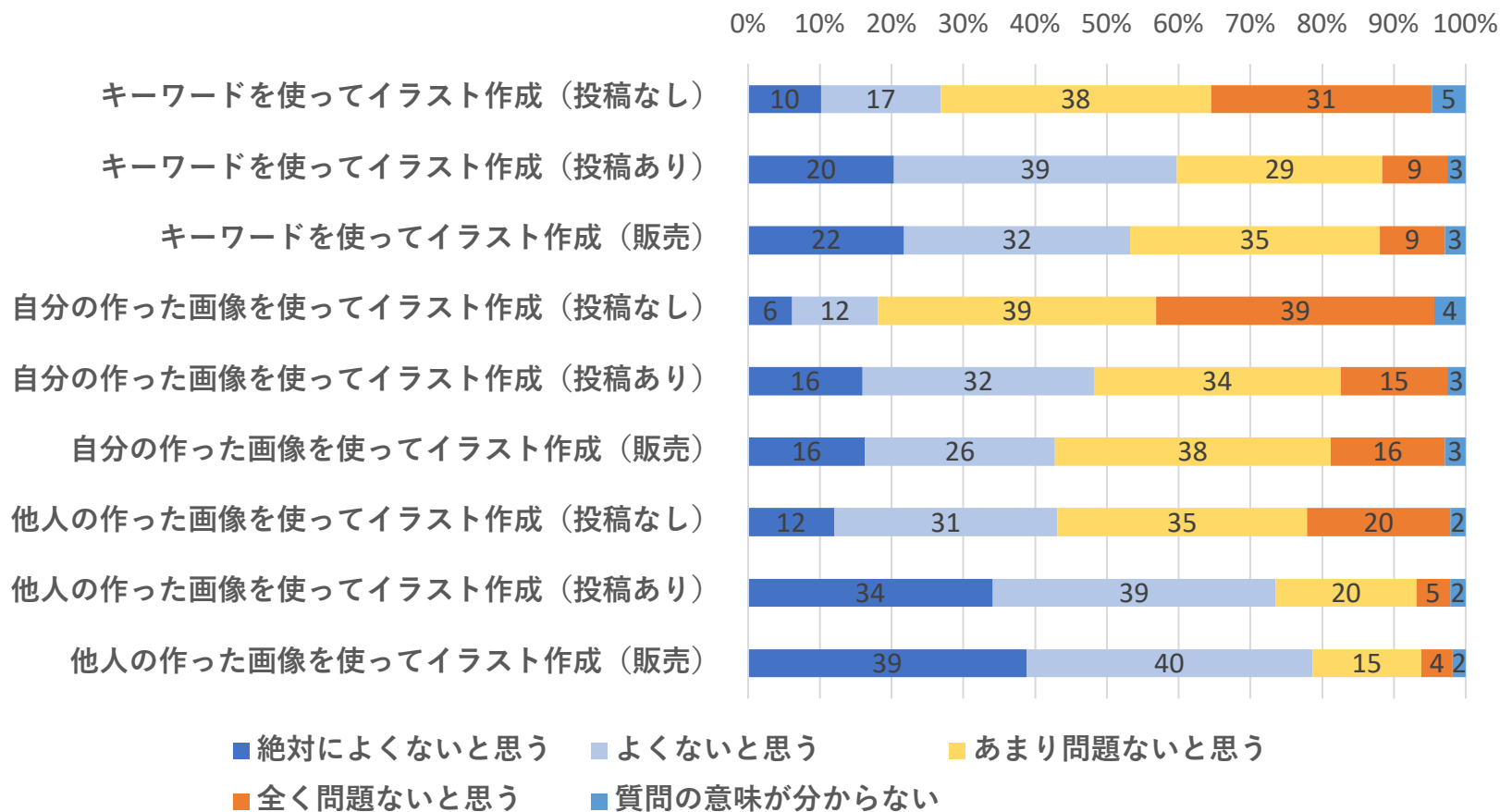
新しい技術への使用経験や認知度



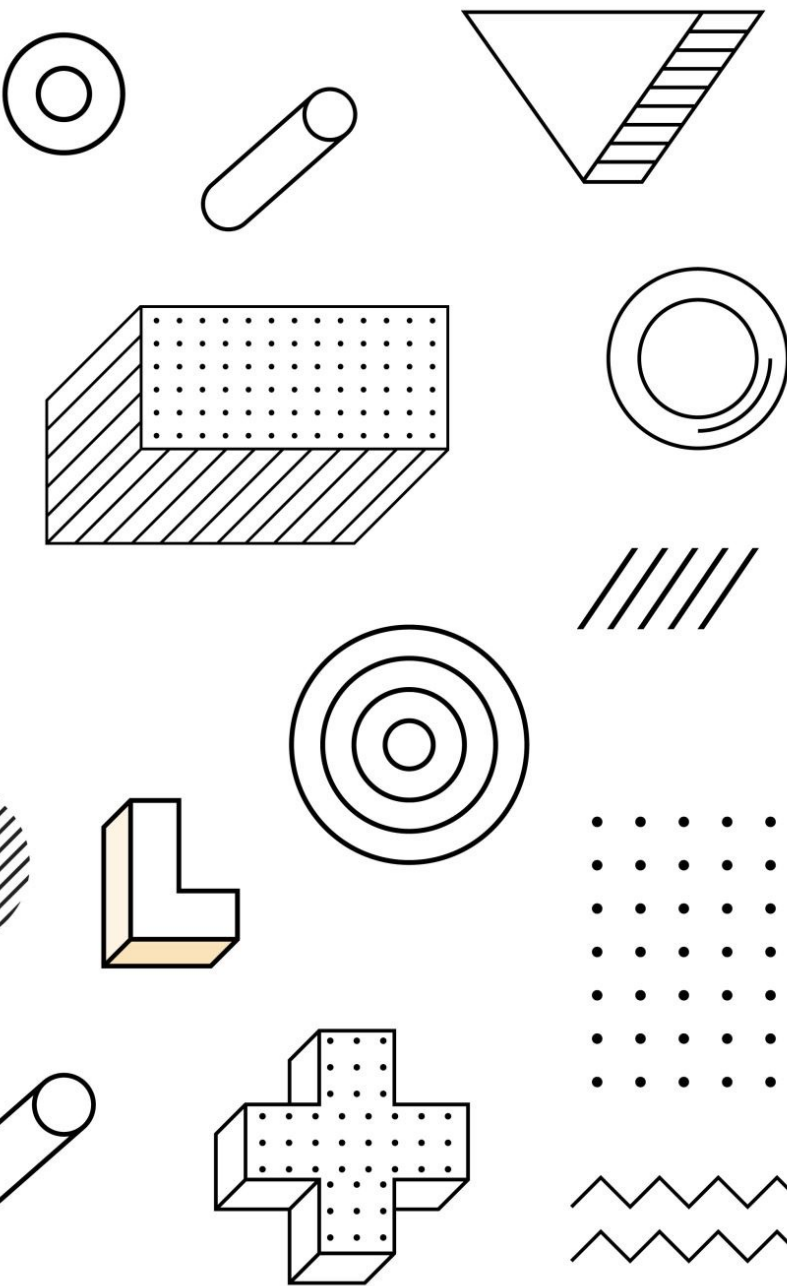
N=276

生成AIの利用についての意識

・素材に、「自分の作ったイラスト」「キーワード」「他人のイラスト」の順で、行為に、「投稿なし」「投稿あり」「販売」の順で、問題を認識するようになる



N=276



全体のまとめ

まとめ

- 誰もが投稿者となりうる中で、投稿経験のあるものに絞った分析
 - 自身で投稿の際のルールについて調べる傾向
 - 他者の著作物利用についても、引用元の明記や利用許諾の確認を行なっている者も
- 他者の著作物を利用する際のガイドラインを希望している
- イラストと動画での善悪の意識の違い：二次利用についての環境整備の違い
- →イラストの利用については曖昧な意識も
 - アイコン利用であればOK、有名／無名の人イラストであればOKなど

まとめ

- 著作権の学習機会は、無断利用の善悪の意識や、投稿時さまざまな点に気をつけるという意識にも関係
- →著作権に対する学習の機会を提供した上で、ソーシャルメディアのガイドライン整備が求められる

今後の課題

- 著作権の学習の方法・内容について
- サンプル数と調査のバイアス
 - 調査趣旨に賛同した親子での実施
 - インターネット調査のパネルの特性
 - 面談調査などを併用した実態の把握
- 生成AIの利用動向や意識についての定点観測

謝辞

ご清聴ありがとうございます。

- 本調査は、安心ネットづくり促進協議会の追加支援を得て行われました。ここに記して、感謝の意を示します。
- 本調査の遂行にあたり、堀川裕介さんに有益なアドバイスをいただきました。また、佐久間柚月さんにご協力をいただきました。心よりお礼申し上げます。